

別表(2-6)

令和3年度 商業実務専門課程 (インターナショナルビジネス学科)														
専門・一般		年次	学期	科目区分	分類			授業科目名	授業科目概要	授業時数	単位数	授業方法		
					必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技
専門 言語運用能力の習得		1	前期	専門	○			JLPT I A	レベル別にクラス分けし、文章で漢字語彙を増やすユニット学習をアプリ活用の反転学習手法でレベルアップを図る。毎回のテストと定期的なPJCテストを活用し常にレベルを確認する。 Highクラス目標：JLPT N1 Bridgeクラス目標：JLPT N2	60	2		○	
		1	後期	専門	○			JLPT I B	レベル別にクラス分けし、文法のトレーニングをアプリ活用の反転学習手法で学習する。それと平行して読解・聴解の具体的な解法を学ぶことで得点率を60%（合格圏）まで引き上げる。 Highクラス目標：JLPT N1 Bridgeクラス目標：JLPT N2	60	2		○	
		2	前期	専門	○			JLPT II A	レベル別にクラス分けし、文章で漢字語彙を増やすユニット学習をアプリ活用の反転学習手法でレベルアップを図る。毎回のテストと定期的なPJCテストを活用し常にレベルを確認する。 Highクラス目標：JLPT N1 Bridgeクラス目標：JLPT N2	60	2		○	
		2	後期	専門	○			JLPT II B	レベル別にクラス分けし、文法のトレーニングをアプリ活用の反転学習手法で学習する。それと平行して読解・聴解の具体的な解法を学ぶことで得点率を60%（合格圏）まで引き上げる。 Highクラス目標：JLPT N1 Bridgeクラス目標：JLPT N2	60	2		○	
		1	前期	専門	○			ビジネス日本語 I A	ビジネス・リタラシーの基本についての知識・理解を深め、読む、聞く、書く、話すの4技能をバランスよく演習しながら、ビジネス日本語の基礎力構築を図る。	60	4	○		
		1	後期	専門	○			ビジネス日本語 I B	I Aで学んだビジネス・リタラシーの基本についての知識・理解をさらに深め、日本語運用能力（4技能）の充実を図るとともに、模擬試験問題や演習問題を通して次年度のビジネス能力検定受験に向けての準備を進める。	60	4	○		
		1	前期	専門		○		ビジネス英会話 I A	期首プレースメント・テストによる2レベル編成とし、聴解・読み解・ボキャビル・文法を中心とした演習およびRecitation（発表）を通して、英語によるコミュニケーションの基礎力（聴解・読み解）を養成する。期中と期末にAchievement TestによるPerformance測定を行う。	60	2		○	
		1	後期	専門		○		ビジネス英会話 I B	期首プレースメント・テストによる2レベル編成とし、聴解・読み解・ボキャビル・文法を中心とした演習およびRecitation（発表）を通して、英語によるコミュニケーションの基礎力（聴解・読み解）の充実をはかる。 基礎クラス期末目標（L/R）：TOEIC Bridge120点、TOEIC310点。 応用クラス期末目標（L/R）：TOEIC Bridge150点、TOEIC470点。	60	2		○	
		2	前期	専門		○		ビジネス英会話 II A	期首プレースメント・テストによる2レベル編成とし、模擬試験問題の徹底演習を通して、英語によるコミュニケーションの応用力（聴解・読み解・発話）を養成する。期中と期末にAchievement TestによるPerformance測定を行う。	60	2		○	
		2	後期	専門		○		ビジネス英会話 II B	個々の学生に合わせて、以下の2レベル編成とし、模擬試験問題の徹底演習とPresentationを通して、英語によるコミュニケーション応用力（聴解・読み解・発話）の充実をはかる。 基礎クラス期末目標（L/R）：TOEIC Bridge140点、TOEIC400点。 応用クラス期末目標（L/R）：TOEIC Bridge170点、TOEIC700点。	60	2		○	
		2	前期	専門	○			ビジネス日本語 II A	音読とシャドーイングの徹底訓練により、ビジネス・リタラシーの基本についての知識・理解をより強固なものとするとともに、日本語運用能力（4技能）の充実をはかり、ビジネス能力検定の7月受験（3級）の準備を進めます。	60	4	○		
		2	後期	専門	○			ビジネス日本語 II B	音読とシャドーイングの徹底訓練により、ビジネス・リタラシーの基本についての知識・理解をより強固・確実なものとするとともに、日本語運用能力（4技能）のさらなる充実をはかり、ビジネス能力検定の12月受験（3級・2級）の準備を進めます。	60	4	○		
		1	前期	専門		○		日本語演習 I A	日本語コミュニケーションの実際の場面を想定した場面シラバスを中心に、様々な場面での日本語使用に対応できる力をつけるためのトレーニングを行う。	30	1		○	
		2	前期	専門		○		日本語演習 II A	ビジターセッションやインタビュータスクを通して実際に日本人とのコミュニケーションを図るトレーニングを行い、あらゆる場面に対応できる日本語力を養う。	30	1		○	
		2	前期	専門	○			リテールマーケティング（販売士） II A	接客に関する基礎知識、取扱商品に関する専門知識、売場や店舗を管理する能力、経済の動き全体からみた店舗経営等について、講義と用語を押さえた問題や確認テストを通して理解を深める。	60	4	○		
		2	後期	専門	○			リテールマーケティング（販売士） II B	接客に関する基礎知識、取扱商品に関する専門知識、売場や店舗を管理する能力、経済の動き全体からみた店舗経営等について、講義と用語を押さえた問題や確認テストを通して理解を深める。	60	4	○		
		2	前期	専門	○			リテールマーケティング（販売士） 演習 II A	リテールマーケティング（販売士）検定3級合格のため、テキストを用いた試験問題の徹底演習や予習問題の解説を行い、より実践的な知識と理解を深める。定期的に確認テストを行うことで、理解度を認識する。	60	2		○	
		2	後期	専門	○			リテールマーケティング（販売士） 演習 II B	繰り返しテキストの問題や過去問題を行い、正答率とスピードを上げる。用語の確認や予習問題の解説を通して、リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できるレベルまで引き上げる。	60	2		○	
		1	前期	専門		○		マーケティング概論 I A	市場調査や商品開発などマーケティングに関する基本的な考え方や知識を習得する。ケース・スタディの活用や、基礎用語の確認テストを行うことで、より理解を深めマーケティングに対する関心を高める。	30	2	○		
		1	後期	専門		○		マーケティング概論 I B	実際のビジネスケースを使用し、簡単なレポート課題やクイズを行うことで、マーケティング理論の実践方法・活用方法などを学ぶ。また、授業は講義形式ではあるが、グループワークを取り入れ、課題の分析や解決方法の理解を深める。	30	2	○		
		1	前期	専門	○			サービス接遇 I A	ペアやグループによるワーク演習を繰り交ぜながら、サービス接遇についての基本的理解を深め、基本的なサービスで求められる知識を習得し理解を深める。	60	2		○	
		1	後期	専門	○			サービス接遇 I B	プレゼンテーションを重視した演習を繰り交ぜながら、サービス接遇の実践的実務についての知識・理解を深め、サービスの現場で求められる高度な知識とスキルを習得する。	60	2		○	
		1	後期	専門	○			マーケティング実践演習 I A	ビッグデータの分析や活用方法をPOSデータやドルフィンAIなどを用いて学ぶ。	60	2		○	
		1	後期	専門	○			マーケティング実践演習 I B	ビッグデータを活用し、課題解決の提案を行う	60	2		○	
		2	前期	専門	○			マーケティング実践演習 II A	ビッグデータマーケティングを使用した成果発表	60	2		○	
実践的コミュニケーション力の習得		2	後期	専門	○			企業実習	企業での実習を通して、現場での経験値を高め、業界・企業・職種の理解を深める。	45	1			○
知識		1	前期	専門		○		ICT演習（文書作成） I A	一般的なワープロソフトである「Word」を使用し、文字入力や基本的な文書作成を学ぶ。頻出用語の確認を通じ、日本語版のWordの理解を深める。また、制限時間を設けたタイピングテストを行うことで、日本語の文字入力を素早く正確にできるレベルまで引き上げる。	30	1		○	

1	後期	専門		<input type="radio"/>	ICT演習（文書作成）ⅠB	「Word」の応用的な操作を学ぶ。画像や图形をはじめとするグラフィック要素の使用や、複合的な操作を身につける。タイピングのテストやゲーム、様々な文書の作成を繰り返し行うことで、ワープロ検定3級に合格できるレベルまで引き上げる。	30	1		<input type="radio"/>	
1	前期	専門		<input type="radio"/>	ICT演習（データ活用）ⅠA	企業で広く使用されている「Excel」を使用し、表の作成、データ入力、関数について学ぶ。日商PC検定の出題ポイントを押さえた演習問題や、動画を視聴して予習をする反転授業を取り入れることで、より理解度を高めるトレーニングを行う。	30	1		<input type="radio"/>	
1	後期	専門		<input type="radio"/>	ICT演習（データ活用）ⅠB	「Excel」を使用し、グラフや图形の挿入など応用的な操作を学ぶ。理解度に応じた課題に取り組み、実践問題や試験対策問題を繰り返し行うことで、日商PC検定3級に合格できるレベルまで引き上げる。	30	1		<input type="radio"/>	
2	前期	専門	<input type="radio"/>		ICT活用ⅡA	PowerPointの操作やプレゼンテーションの方法について理解を深める。	60	2		<input type="radio"/>	
2	後期	専門	<input type="radio"/>		ICT活用ⅡB	PowerPointを使用し、様々なテーマに沿ったプレゼンテーションを日本語で行い、内容を分かりやすく正確に伝えるスキルを身につける。	60	2		<input type="radio"/>	
1	後期	一般		<input type="radio"/>	表現力ⅠA	コミュニケーション授業や演劇を学び、自己表現力や社会性を身に付ける	30	1		<input type="radio"/>	
2	後期	一般		<input type="radio"/>	表現力ⅡA	コミュニケーション授業や演劇を学び、自己表現力や社会性を身に付ける	30	1		<input type="radio"/>	
1	前期	一般		<input type="radio"/>	キャリア支援ⅠA	自分自身で目標を立て、目標実現に向け取り組むことを意識していく。また、クラスの一員としての意識を持ち、関与できるよう様々な取組みを行っていく。	30	1		<input type="radio"/>	
1	後期	一般		<input type="radio"/>	キャリア支援ⅠB	将来の仕事や人生についてどのように考えたら良いか」「将来の目標を実現するためには何が必要か」等、キャリアを考える上でヒントや気づきを得られるよう、様々な取り組みを行う。就職に向けて、就職に必要な準備を段階的に進めていく。	30	1		<input type="radio"/>	
2	前期	一般		<input type="radio"/>	キャリア支援ⅡA	自分自身で目標を立て、目標実現に向け取り組むことを意識していく。また、様々な活動を通じ、他者と協調・協働して行動できる力を身に付ける。就職に必要な業界知識を知る。	30	1		<input type="radio"/>	
2	後期	一般		<input type="radio"/>	キャリア支援ⅡB	前期に引き続き、様々な活動を通じ、他者と協調・協働して行動できる力を身に付ける。就職に必要な基礎知識を再学習する。	30	1		<input type="radio"/>	
1	前期	専門		<input type="radio"/>	日本語BridgeⅠA	JLPT N2 レベルに引き上げるため、文字・語彙、文法、読解、聴解それぞれのスキルを高めるためのトレーニングを行う。	30	1		<input type="radio"/>	
1	前期	専門		<input type="radio"/>	日本語BridgeⅠB	JLPT N2 レベルに引き上げるため、文字・語彙、文法、読解、聴解それぞれのスキルを高めるためのトレーニングを行う。	30	1		<input type="radio"/>	
2	後期	専門		<input type="radio"/>	日本語BridgeⅡA	JLPT N2 レベルに引き上げるため、文字・語彙、文法、読解、聴解それぞれのスキルを高めるためのトレーニングを行う。	30	1		<input type="radio"/>	
2	後期	専門		<input type="radio"/>	日本語BridgeⅡB	JLPT N2 レベルに引き上げるため、文字・語彙、文法、読解、聴解それぞれのスキルを高めるためのトレーニングを行う。	30	1		<input type="radio"/>	

合計	42 科目	1965 单位時間	79 单位)
----	-------	-----------	--------

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：71単位取得 GPA 2.0以上 必修科目を取得していること	GPA 2.0以上	1学年の学期区分	2 期
	必修科目を取得していること	1学期の授業期間	15 週

科目名	企業実習							学期	通年	期
担当教員	松島 綾子		科目区分	専門	授業方法	実習・実技	分類	必修	単位数	
学習目的	実際の日本企業において現場を体験し、日本の企業文化・商習慣を知る									
授業内容	机上で学んだことを、企業で実践する									
学習目標	現在学んでいることと現場の様子を比較し、その違いを理解する									
使用テキスト										
週数	授業計画									
1	実習現場にて個々のスケジュールに合わせる									
2										
3										
4										
5										
6										
7										
8										
9										
10										
11										
12										
13										
14										
15										
	評価項目/割合	評価内容								
評価基準	1. 課題 70 %	実習先からの評価をもとに算出								
	2. 授業姿勢 30 %	出席率などから算出								
	3. テストその他 0 %									
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。										
目標検定・課外授業実施予定・そ										

科目名	表現力 IA							学期	前期
担当教員	長谷川万葉	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	学習を通して、相手に伝わる表現力を養う。人前で堂々と発表できるようになる。人と対話できるようになる。								
授業内容	歌唱、ダンス、演劇、といった様々な表現を楽しく学ぶ。ストレッチ、呼吸、滑舌、発声等、基礎から実践的に学習し、最終的には発表を目指す。								
学習目標	学習を通して、明るい表情、正しい姿勢、相手に伝わる声、開かれた心など、接客やビジネスにもつながる健やかな心と体をつくる。他者との関わりの中でコミュニケーション能力を高める。自由な発想力や表現力、人前で堂々と発表できるような素地をつくる。								
使用テキスト	オリジナルテキスト、楽譜等(授業内容に合わせて、適宜配布。)								
週数	授業計画								
1	イントロダクション～自己紹介、授業内容の説明。								
2	シアターゲームとコミュニケーショントレーニング								
3	ダンス① 身体表現のひとつであり、既成のスタイルやテクニックのないコンテンポラリーダンスを学ぶ。言葉のいらない表現の世界、体を使ったコミュニケーションを体感する。								
4	ダンス② 身体表現のひとつであり、既成のスタイルやテクニックのないコンテンポラリーダンスを学ぶ。言葉のいらない表現の世界、体を使ったコミュニケーションを体感する。								
5	ダンス③ 身体表現のひとつであり、既成のスタイルやテクニックのないコンテンポラリーダンスを学ぶ。言葉のいらない表現の世界、体を使ったコミュニケーションを体感する。								
6	演劇① 演劇で遊ぶ。インプロ(即興演劇)やシアターゲームを体験する。相手に伝わる表現を学ぶ。								
7	演劇② 演劇で遊ぶ。インプロ(即興演劇)やシアターゲームを体験する。相手に伝わる表現を学ぶ。								
8	演劇③ 演劇で遊ぶ。インプロ(即興演劇)やシアターゲームを体験する。相手に伝わる表現を学ぶ。								
9	中間発表								
10	ソング① 歌と音楽を楽しむ。声の表現を学ぶ。								
11	ソング② 歌と音楽を楽しむ。声の表現を学ぶ。								
12	対話① 対話を学ぶ。他者と関わる。								
13	対話② 対話を学ぶ。他者と関わる。								
14	グループ発表								
15	発表								
	評価項目/割合		評価内容						
評価基準	1. 課題 30 %		実技課題への積極的な取り組み、課題提出状況。						
	2. 授業姿勢 30 %		①欠席・遅刻 ②挨拶・受講態度 ③前向きに挑戦する姿勢 ④授業への積極的、協力的な参加 ⑤忘れ物がないか以上の観点から評価する。						
	3. テストその他 40 %		個人発表、グループ発表等。発表の出来、そこに至るまでの過程、取り組み姿勢を総合的に判断する。						
課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。									
目標検定・課外授業実施予定・そ	授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合あり。								

